

まえがき

本書は、日本貿易振興会アジア経済研究所が実施した平成13年度「アフリカ経済論の再構築」研究会と、平成14年度「新アフリカ経済論」研究会（いずれも平野克己主査）の最終成果である。このふたつの研究会は、アフリカを専門とする地域研究者と、経済学研究者とからなる、学び合いの場であった。地域に関する知とディシプリンに関する知を濃密に交流させ、両者が激しく混交するなかから本書は生まれたのである。

アフリカに対する関心はわが国において質量ともに高まっている。また、世界的レベルでのアフリカ研究の進展は著しい。とくに、開発経済学の分野におけるアフリカ研究には日進月歩の感がある。これに伍していくことは、アフリカ経済を専門とするきわめて少数の日本人研究者だけでなしうる仕事では、もはやなくなった。経済学者との共同は必至であり、編者の悲願でもある。その最初の記念すべき成果ができあがった。本書を第一弾として二の矢三の矢を放っていく心積もりである。

本研究会にオブザーバーとして参加頂いた当所アフリカチームの同僚諸氏からは常々有益なコメントを戴いた。さらに、さまざまな方に講師をお願いし、お話しを伺った。当所開発研究部の錦見浩司主任研究員、同じく伊藤成朗、寶劔久俊両氏、金沢大学の辻村英之助教授（現京都大学助教授）、法政大学の絵所秀紀教授、拓殖大学の渡辺利夫教授、政策研究大学院大学の速水佑次郎教授に改めて御礼申し上げる。

2003年3月

編者